

# 令和3年 飯田市教育委員会10月定例会会議録

---

令和3年10月13日（水） 午後3時20分開会

---

## 【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

## 【出席職員】

参与	松下 徹
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	湯本 正芳
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長	馬場 保之
文化財施設整備担当専門幹	関島 隆夫
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	久保敷 武康
学校教育課長補佐兼教育企画担当主幹	竹村 公彦
教育支援指導主事	山浦 貞一
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

---

#### 日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） ただいまより令和3年飯田市教育委員会10月定例会を開会したいと思います。

本日もよろしくお願いいいたします。

---

#### 日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程第2、会期の決定、本日10月の定例会、本日1日とさせていただきます。

---

#### 日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員、上河内陽子教育委員にお願いいいたします。

◇教育委員（上河内陽子） よろしくお願いいいたします。

---

#### 日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、9月の定例会の会議録、示させていただきました。承認ということでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認とさせていただきます。

---

#### 日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは私のほうからは、まず、新しい教育委員の野澤稔弘様を紹介させていただきたいと思います。

伊藤委員には2期8年お務めいただいたわけですが、この10月9日から野澤稔弘新教育委員にお願いいしたいと思います。

野澤さんのご紹介をさせていただきます。

野澤委員は、現在、株式会社キンポーメルテックの代表取締役であります。ご自分の会社の経営をしている傍ら、平成26年からは南信州工業会の会長をお務めになられております。自分の会社に留まらず、この地域の産業の振興にご尽力いただいております。

そんなご多忙の中、今回、教育委員をお引き受けいただきました。今までのご経験、そしてこれからの飯田市が進むべき中で、子供たちの教育をどうしていったらいいのか、是非、ご意見をいただき、この教育行政にお力添えをいただけたらと思います。

4年間、野澤さんよろしく願いいたします。

それでは、野澤様から一言、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 改めましてこんにちは。

野澤稔弘と申します。今、ご紹介いただきました株式会社キンポーメルテックの代表を務めさせていただいております。

この教育委員のお話いただいたときに、「なんで私が」というふうに思いました。なぜかという、私、子供いないんです。全然、子育てというものをしたことがないこの私がなぜ教育委員をとという話だったんですが、市長さんが「野澤さんにやってもらったら」というようなお話をされたという話をちょっと伺いまして、「そこまでおっしゃっていただけるなら」と思って引き受けさせていただきました。

私、横須賀のほうで育っているんですけども、その高校時代の同級生に、やっぱり教育委員やっているのがいまして、その同級生に「何やるの」って聞いたんですけど、実際、いろんな場所でいろいろあるからってという話で、ただ、「そういうふうに言われたんだったらやってみたら」と言われたのも受けた1つの要因かなというふうに思います。

私、大阪で生まれて、横須賀で育って、こちらにまいりましたけれども、前職の会社にいるときに、熊本、青森、山口、埼玉、その辺を点々として、それで飯田に来ましたので、日本各地に友達が結構います。なので、ある意味でネットワークが広いところがあって、いろんなところでそういうのは役に立っているかなというふうに思います。

子供たちには、大人になるというのは、交流の場がどんどんどんどん広がっていくと思うんですけども、それがやっぱり広がっていくと責任も選択の自由もたくさん出てくる。その楽しさみたいなものが教えられたらなというふうに今は感じております。

4年間ですけれども、本当にわからないことだらけですが、皆さんに補助をいただきながら頑張っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

野澤委員、よろしく願いいたします。

それでは、教育長報告事項ということで、1枚、レジュメを用意させていただきましたので、それに従って3点報告させていただきたいと思います。

まずは土曜日開幕の式典、教育委員の皆さんには、ご出席ありがとうございました。菱田

春草の没後 110 年特別展が開幕しました。

まだ1週間も経ってないところでありますが、速報として今どんな状況かを報告させていただきたいと思います。

初日の土曜日が 364 人、日曜日が 422 人、月曜日休館だったのですが火曜日が 432 人ということで、本当にコロナ禍の中で、出足が心配されたところではありますけれども、順調にお客様というか観覧者が増えているかなと思います。

また小中学校のいわゆる社会見学の勉強として、来館の予定の学校数も書かせていただきました。2 番目にご報告させていただき、今ちょうど学校の運動会とか、修学旅行とか詰まっているので、その中で美術博物館の日程を取るのはとても大変な時期かとは思いますが、市内の小学校 13 校、中学校 5 校、そしてまた飯田市以外の下伊那の管内では 3 校、下伊那以外からは辰野から 1 校ということで、子供たちの見る機会も積極的につくってきたいなと思います。

私自身も、子供たちには是非この機会を見逃さずに本物を味わっていただきたいと思いまし、飯田の市民の皆さんにもこの 1 カ月間のあいさつはすべて春草の話題にしようかなと、そして 1 人でも多くの皆さんに来てほしいなと、そんな思いを持っています。

皆さんも是非、いろんところで先日の感動を伝えていただいて、1 人でも多くの観覧者が来ていただけるようにお力添えをお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

続いて 2 番、小学校運動会や各行事の現状の報告をさせていただきたいと思います。資料別添で裏表に小学校と中学校の状況を記載したものをお配りさせていただきました。

全体ざっくりこうして見させていただくと、夏休み明け 9 月に運動会を予定していた小学校が多かったわけですが、このときはコロナがデルタ株ということでとても脅威があったので、約 1 カ月間遅らせての計画になりました。

現状、今、感染レベルも下がり、1 カ月間の中でしっかりと練習もできて、小学校の運動会、右から 4 番目の列になると思いますが、ほとんど延期したところが多いんですけども、10 月の中旬から下旬にかけて準備されて、無事終わることができそうだなと思っています。

それぞれの学校では感染予防をしっかりしながらなので、大変なご苦労があるかと思いますが、本当に子供たちの良い機会にしていきたいなと、それを支えていきたいなと、そんなふうに思っています。

また中学校の修学旅行、小学校の修学旅行もこの時期が今中心になってきていますが、感染レベルが下がったとはいえ、県内での実施ということで方向性を出させていただいていま

す。今後、また第6波の可能性もあるわけですし、子供たち自身は、ワクチン接種をしてない小学生もいるわけですので、そういった意味では、すぐに東京や京都・奈良という県外ではなくて、こういうときだからこそ地元の魅力の再発見の機会にしていきたいと、そんな思いもあって、県内での修学旅行に限定して行っています。こちらのほうも実り多い行事になってくれると良いかと願っています。

3番目、下伊那教育7団体の連絡、昨日長野県庁へ陳情に行つてまいりましたので、少しご報告をさせていただきたいと思います。

7団体、ご存知の皆さんもいらっしゃると思いますが、飯田市の教育長や教育長職務代理人、教育委員の皆さんでつくる教育委員会連絡協議会、そして、PTAの連合会、下伊那の教育会、小学校の校長会、中学校の校長会、飯田養護学校、下伊那の校長教頭組合、そして教員の組合下伊那支部という7つの団体が県に力を合わせて教育環境の充実のため、整備のために県庁に要望をしに行くという機会です。

1年に1回の機会ですけれども、昨日10月12日に向けて約3・4カ月それぞれの団体で要望を整理し、手渡してきました。

ポイントとしては、5つありますので、それぞれ少し紹介をしたいと思います。まず1番目は飯田下伊那の教育課題としては、ここに書かせていただきましたが、学校の教職員が不足しているという課題です。

最初から不足しているわけではなくて、定数があるんですが、病気で療養休暇を取ったりまた産休で現場を離れなければいけなかったり、そうしたときに講師を確保していくわけですけれども、その確保する正規教職員や講師が足りなくなっているという現状があります。

こちらのほうは、毎年こういう状況があつて陳情しているわけですけれども、なかなか改善されません。県の要望する以前に下伊那校長会では、200に及ぶ大学へ講師募集の電話をしたりパンフレットを送ったり、また飯伊の市町村教育委員会連絡協議会では、魅力発信のためのホームページを立ち上げの準備をしていたりとか、この間、様々な対策をとっているわけですが、なかなか状況が改善されない現状があります。

こちらのほうの要望に対して、県の教育長を含む教育委員会事務局のほうからは、名簿の精選や洗い直し、発掘作業、PR活動を引き続きやっていきますという話だったので、校長会長と私のほうで少し食い下がって、同じような回答だと現状は回復されないの今一度この大変さを認識していただきながら、対処療法ではなくて構造的な問題を抱えているので、それも問題解決と一緒に頑張って取り組んでほしいとお願いしました。

今、構造的な問題って言ったのはどういうことかという、飯田下伊那には産休・育休に

なる年齢層の若い人たちが多いということと、長野であるとか、松本であると大学の採用試験は受かって来年度目指している若い人がいるので、そういう募集の方が来てくれることもあるんですが、じゃあこの飯田下伊那の僻地に来てくれるかって、なかなか小さな学校に通勤時間を割いてここに来ていただけるのはなかなか難しいってところがあります。

そんなところでしっかりと県と力を合わせて、この教員不足の対策をしていきたいというふうに申し伝えました。是非、これはお互いの問題として頑張っていきたいなと思っています。

2番目としては、地域の実情にあった通級指導教室の充実、こちらのほうは本当に県教委のご尽力で毎年毎年、増設している状況です。引き続きお願いしたいということをお願いしてきました。

また、へき地級地指定の維持・改善ということで、今年度は実際にこの地が僻地かどうかという調査して再整備されます。もう1回、再調査する年で、実際に県教委からも来て現状の中で、是非、こういった等級指定を維持改善してほしいということをお願い申し上げました。

4番目としては、「GIGAスクール構想」の実現に向けて県教委からもお力添えいただきたいということで、この4番の（ア）に書きましたけれども、是非、県としてもこの「GIGAスクール構想」を推進しているんだと、原山教育長から強いメッセージをお願いしたい。例えば、動画をつくるとか、いろんなチラシをつくるとか、もちろん今、飯田下伊那では、学校の校長による学校からの保護者への通知、また教育委員会からも保護者への通知という形で、家庭へのご理解、地域のご理解を進めているわけですが、そのところでもう1段、県からもそういったメッセージが届くとありがたいということで、お願いしてまいりました。これについては、原山教育長からも直接、こういった方向を進めていきたいという力強い言葉をいただきました。

またエのところにも書きましたけれども、校務支援システム、教職員、先ほどの事務も含めて、学校事務が使うシステムですけれども、こちらは長野県全体での導入を今目指しているわけですが、今、飯田市は校務支援システム導入していません。それは、様々な問題があると思っているので、その改善要望をさせていただきました。ただいずれにしろ、今、1人1台端末が揃っている中で、校務支援システムのほうも検討しなくてはいけない段階に来ていますので、今年度、来年度に向けては、しっかり検討していき、また、導入がしやすい価格帯やサービス内容にさせていただきたいということをお願いしてまいりました。

最後5番、令和5年度に高校入試改革が行われ、高校募集定員の確保、飯田下伊那の実情

にあった入試制度改革、新たに導入される入試制度の内容についての検討をお願いしたいということで、特に入試制度が変わるので、内容の検討とともに現場にわかりやすく周知することをお願いしたいということで伝えてまいりました。

いずれにしろ、県の南部のこの飯田下伊那の教育環境の充実のためには、県との連携、協働というのがどうしても欠かせないというふうに思っています。この1回の要望で終わるのではなくて、引き続き要望したり、また力を合わせて充実に向けて頑張っていきたいので、また別の機会をつくってお願いに上がりますということを申し上げて長野から帰ってまいりました。

私のほうからは教育長報告事項、以上です。

何かご質問あればお願いします。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 済みません、多分教育畑の言葉だと思うんですけど、教員加配っていうのはどういうことですか。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

今、学校では、文部科学省が基本的には教職員の定数っていうのを定めています。例えば小学校が12クラスだとそれぞれ担任をつけて教科指導を含めて例えば15人とか。そういう定数があります。それに例えば県がこの学校はICTを是非推進していきたいのでということで、プラスに教職員をつけたりします。それが加配といいます。県がつける場合もあれば、例えば今、飯田市では上村小学校、和田小学校に、この充実した教育環境をより良くするために市としての加配をつけて、よりこの少人数でも学びが充実していくようにということで、基本の定数以上に人員を配置することを加配といいます。

◇教育委員（野澤稔弘） わかりました。もう1つあります。

「通級指導教室（LD等）」って書いてあるんですけど、この辺もちょっと言葉がわからないので申し訳ありません。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

それは、湯本専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（湯本正芳） 学校には特別支援学級といって、発達に障害がある子供たちがいるんですけども、その子供たちは特別支援学級に入ることが今まではほとんどだったんですけど、今はその子供たちが全員そこに在籍するというのではなくて、普通は通常級のほうにいながら、時間を抜き出してその特別に指導する時間をつくっている、それが通級の指導教室になります。

それでLD等というのは、いろんな発達の障害があるんですけども、その障害のことの1つで、学習障害と呼んでいて、ある特定の部分の学力が端的に低いような場合をLDという言い方をしています。

◇教育委員（野澤稔弘） はい、わかりました。

済みません、ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにあつたら是非聞いていただいて、共通認識を図れたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほかにありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、次に移りたいと思います。

---

#### 日程第6 議案審議（1件）

○教育長（代田昭久） 日程第6、議案審議。今月の議案審議、1件です。

---

#### 議案第63号 令和3年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 議案第63号、「令和3年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」をお願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第63号、資料の4ページでございます。「令和3年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいたとおりでございます。それぞれ記載をいたしました認定要件にて認定をいただきますようご提案申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

ただいま、議案第63号の説明がありました。就学援助費支給対象者の認定について、ご質問ご意見等あればよろしくお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、認定ということでよろしくお願いいたします。



---

## 日程第7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第7、「協議事項」に入ります。

今月の協議事項、2項ありますのでよろしく願いいたします。

---

### （1）少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について

○教育長（代田昭久） まず1つ目、「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」、お願いします。

竹村教育企画担当主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 学校教育課の竹村と申します。よろしく  
お願いいたします。

資料のほうはNo.1の5ページになります。

本日は、9月28日に開催いたしました令和3年度第1回研究会の協議内容についてご報告をしたいと思います。その前にこの取り組みの経過について少し触れさせていただきたいと思います。

資料の11ページになります。

令和2年度からの経過ということで、この取り組みにつきましては、飯田市でもご多分に漏れず少子人口減少社会、子供たちが減ってきているということや、学校施設が古くなっている、そんな問題が課題となっていて、昨年度の10月から教育企画課担当主幹ということで、私になりますけれども1名を配置をして研究していくということになりました。

昨年12月15日に第1回研究会ということで開催いたしました。この取り組みについて研究会を設立いたしまして研究していこうということで、その研究会の委員の方につきましては1ページ戻っていただいて9ページになります。

9ページは、今年度の委員の皆様の名簿になりますけれども、例えば校長先生の代表の方ですとか、PTAの代表の方、保育園の保護者会の代表の方、あとまちづくりの代表の方、公民館の館長さん、有識者、あと今日ご出席の北澤先生も委員として入っておる形でおります。

この研究会の第1回を12月15日に開催をいたしまして、「児童生徒が減っていること」ですとか、「校舎の老朽化が進んでいること」、それに対して「多大なコストがかかること」、そういう課題があるんですけれども、子供の数が減ってきているんだけれども、数合わせではなくて、子供をまん中に置いて、将来の子供たちにとって望ましい教育環境はどんな環境

かということを含んで、みんなというのは先生方や保護者や地域の方、教育委員会ももちろんですが、みんなで考えていきたいというようなことを共通の認識として共有したところ  
です。

この研究会は3月3日にも第2回を開催をいたしました。こちらでは、研究会の委員であります2人の有識者、坂野教授、伏木教授、それぞれ大学の先生なんですけれども、このお二人からこの課題についての全国的な先進事例や県内例などをご講義をいただきました。

そして今年度になりますけれども、今年度一学期5月から7月の間にすべての学校運営協議会で意見交換をするということになったんですけれども、それを始めるに当たりまして、5月14日に第3回研究会をやりまして、学校運営協議会での意見交換の進め方について協議をしていただいたという経過になります。

一学期の各学校運営協議会での意見交換をまとめたものが13ページからになります。内容のほうは事前にお配りをさせていただきましたので、お読みいただいたとは思いますが、その内容を9月28日の研究会へ報告をさせていただいて協議をしていただいたということになります。

また9月28日の研究会では、今後の進め方ですとか、あと37ページになりますけれども、「児童生徒『ひとりひとり』の学びを支える地域に根ざした飯田らしい教育環境づくりに向けて」ということで、今年度から学校運営協議会で意見交換を始めたんですけれども、この内容を知っていただいているのは、今のところ学校運営協議会の関係者だけということ、そうでなくて、市民の方、もっと大勢に知っていただきたいということで、配布資料をつくって配布していこうとしていますが、その内容についてもこの先日の研究会で報告いたしまして、ご協議をいただいたところであります。

それでは、研究会の協議の内容についてですが、1つ目は今の37ページの配布資料について協議をいただきましたので、この37ページをごらんいただきながらお聞きいただければと思います。

配布資料の協議のポイントとしましては、飯田市の学校における課題、少子化ですとか、校舎の老朽化、そういった課題と、それに対して教育環境の充実に向けた取り組みが始まったこと、そういったことをより多くの人に知ってもらうためにはどんな工夫があるのか、ということ、協議をいただきました。

37ページを見ていただくと、ちょっと情報量が多いかなということで、保護者がしっかり目をとってもらうために、重要な内容であるということをお伝えする、文章をもう1個つけたらどうかというようなご意見をいただきました。

また、自分の住んでいる地域の学校についての情報、魅力ですとか、課題ですとか、そういったものを載せていくとより身近で読んでもらいやすくなるんじゃないかというようなご意見をいただきました。

38 ページにはデータを載せてあるんですけども、そうしたデータについては「QRコードでスマホなんかで見れるようにすれば、いろんな人に見てもらえるようになるんじゃないか」というようなご意見もいただいたり、「イメージ動画を作成するような方法も考えられるんじゃないか」というようなご意見もいただいております。

この配布資料につきましては、研究会でいただいたご意見を参考にしながら、もう少し作り込んでいきたいというふうに考えております。

続いて、5 ページにお戻りいただきまして、研究会の協議内容の報告の続きになりますけれども、1 番は今の解説の部分になります。

2 番は、今年度の二学期の学校運営協議会での意見交換についてです。一学期に続きまして、二学期も学校運営協議会で意見交換をする予定ですが、その進め方について説明をさせていただきます。

二学期の意見交換でも結論を求めるものではなく、一学期の意見交換を踏まえて、いかに学校の特色・魅力づくりを進めて行くかの意見交換をしていきたいというふうに考えています。学校ごとに一学期に出た意見が違いますので、二学期の意見交換からは事前に各学校で、意見交換のテーマについて事前調整して、それぞれの学校で進めていただくというふうに考えております。こんな説明をさせていただきます。

次に、来年度、令和4年度の協議についてですが、基本的な考え方といたしまして、地域の実情に応じた特色・魅力ある学校づくりをみんなで考えていきたい。児童生徒の減少や校舎の老朽化が顕著な校区では、その学校の特色・魅力を生かすためにどのような学校の配置・枠組みが必要であるかを考えていく。これが基本的な考え方になるんですけども、これらを踏まえて、来年度にどう進めていくかというような協議がございました。

令和3年度の学校運営協議会での意見交換から、令和4年度は少し広げて地域の様々な人と協議するステージになっていくんだろうというふうに考えております。

そのステージの中で頂戴した意見としましては、「変革の今だからこそ、既成概念にとらわれずに夢のある議論をしていきたい。」「保育園の保護者のように現在の当事者よりもこれからの方、これから子育てをしていこうという人たちの声を大事にしてほしい。」「地域の課題を考えていくときに学校運営協議会が主体的になれないか。」各学校の学校運営協議会から地域の様々な人に広げていくんですが、それでも学校運営協議会が主体的になれないか、

そんなふうにならないかというようなご意見もいただいております。

また、「教育委員会としての方向性を出してほしい」というご意見をいただいておりますけれども、令和3年度は学校運営協議会の委員の方に多様な意見を出してもらうこととしまして、ここで出された意見を考慮して令和4年の当初には、それ以降の検討を進める上での視点、検討材料としていくと、そんなご意見をいただいております。

また、特に配置や枠組みを検討する地区につきましては、まちづくり委員会が主体となって協議していくことを含めた検討が必要である。

このように令和4年度に向けても様々なご意見をいただいておりますので、こういったご意見も参考にしながら4年度以降進めていきたいというふうに考えています。

今後につきましては以上であります。よろしくお願いたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま、「少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組について」ということで、先年度来、取り組んでおります内容についての中間報告というか、現時点での報告をさせていただきました。

ご質問ご意見等あればお願いたします。

上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 今の説明で、そういった話し合いを進めているということが資料からわかりました。

そこで質問のようなことになるんですが、この中には、どういうスタンスなのかということを書いてほしいとか、専門家の意見が知りたいというようなご意見もあったかと思えます。令和3年3月3日には専門家、玉川大学の先生、それから信州大学の先生からのお話をいただいていると思えますが、そういったものに触れる機会がこの検討会の方々にあるのかということ。

あと、今すぐく学校の教育の現場がオンラインなんかで変わってきていると思えます。そのオンライン何かも、もしかすると今後の教育環境を考える上ではとても重要な視点になるかもしれないので、そういった現状をご存知の方ばかりなのか、もし知らない方がいたら、そういった現状を踏まえた上で考えていただくような機会があるといいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○教育長（代田昭久） 竹村主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 勉強会につきましては、3月3日ですか、研究会の委員の皆さんに対しては開催をしましたが、学校運営協議会の中でも、やはりそう

いった要望がありますので、どういったように開催していくか、これから検討していくことになるかと思えますけれども、実施していく方向で考えていきたいというふうに思っております。

オンラインにつきましては、学校運営協議会の意見交換の中でもオンラインを使って、ICTを使っていけば横の連携で、小さな学校も大勢の子供たちと交流できる。そういったご意見もいただいたりもしておりますので、またそういったところも勉強を重ねていながら検討できたらなというふうに思います。

◇教育委員（上河内陽子） はい、ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） 私も学校運営協議会に参加しながら、やっぱり出るのは学校運営協議会の委員自体が学校の現場や変化を知らないと提案もできないので、もっともっと見る機会がほしいというような、これは教育委員会というか学校への要望と、リアルな状況を知りたいというのが委員の皆さんから出ているので、そういったところを知ってもらおうという作業がこれから重要になってくるんじゃないかと思えます。

三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 質問は、5ページの下から2つ目の黒点、「教育委員会としての方向性を出してほしい」というご意見に対して、その続き「令和4年度当初には、以降の検討を進める上で視点、検討材料を示していく」ということで、視点、検討材料というものが、どの程度のものかというものをお話いただきたいと思えます。

と言いますのは、教育委員会としての方向性を出してほしいと言われて、その意見の意味が少しわかるといいますか、やはり教育財政ですとか、子供の数ですとか、そういうものを行政的な考え方で踏まえたときのあるべき姿、ある程度のたたき台があって、そこに「そうじゃないんだ」というような教育のあるべき姿が何て言うんでしょうか、修正ですとか地域の考え方の肉付けですとか、そういうことをすることのほうが現実的な夢のある議論ができるんじゃないかなということ、このお話を聞くと私も少し思うところがありまして、その先の話し合いの内容をちょっと読ませていただいても、夢のような議論になっているんじゃないかとか、そんなようなコメントもあったかなと思うんですけれども、現実をしっかりと踏まえた上で議論できるように、ある程度の厳しい意見がきたとしても、実際こういった形のもものが1つあるんだよっていうところに、いくつかの提示が必要かなと思えますが、お話を戻してご質問は、視点、検討材料というところほどの程度のもを考えていらっしゃるか。そのことをお聞きします。

○教育長（代田昭久） はい、竹村主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） 今年度の意見交換につきましては、先ほども申し上げておりますけれども、結論を求めずざっくばらんに出してくださってということで、一学期も二学期も進めていこうとしております。一学期をやってみると、やはりいろいろな意見が出てきています。

その中で今後の方向性にも関連するものが出てきております。二学期でもそんなものが出てくるかと思えます。そういった今年度の意見をまとめながら、方向性としては、今日の資料にも付いているんですが、12ページの「将来にわたり子どもたちが主体的に学びあえる場」では今後の学校のあり方の例を挙げさせていただいております。

令和4年度の当初に出す資料には、例えばこんな学校としての例を検討材料として提案していけたらと考えています。

○教育長（代田昭久） はい、野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 非常に難しい課題だなと思って拝聴しておりました。

自分の考えをちょっと述べさせていただきますけれども、私が思うには、10年先30年先の人材を育てるというのは、私は教育ではないかなというふうに思います。

この地域にほしい人材とは、頭数じゃなくて、やっぱりこの地域を引っ張れるリーダーだったり、経営者だったり、そういう人が望まれているんじゃないかなというふうに考えています。

そういうふうに考えると、児童生徒の数が減ってくっていくのは非常に由々しき問題で、やはり多い人間関係の中で自分を形成していくということが、どうしてもどこかで必要になってくると思うんですが、それを何か大人たちのパラダイス的なイメージというか、そういったことで、僕らの世代はそれこそ「なめ猫」とか不良学生が山ほどいて、とんでもない学校がいっぱいありましたので、それを二度と繰り返したくないというその大人たちの何ていうか恐怖心、それがあって、今の子供たちにそれを味合わせたくないという感覚で見ているのかなという気がしてなりません。

やはりそうはいつでも、本当にほしい人を育てる、どういう人なんだろうっていうことを考えたときには、ある程度的人数の中に自分をおいて、人と自分の違いをきちっと理解して、その違いを理解した上で他人を尊重し自分のやりたいことにきちっと巻き込んでいける、そういう能力をつけていっていただかないといけないのかなというふうに思うので、何となくすごく難しい問題だろうとは思っていますけど、減っていくのは今はもう自然の成り行きで致し方ないので、できれば私はある程度、まとめていく方向に持っていくべきじゃないかなというふうに考えています。

私が今、身を置いている工業なんかは、中国とアメリカとヨーロッパに分かれるんですよ。そこで、必ずどこかでそこと競争するわけですよ。競争するときに彼らはよっぽどそういう教育がしっかりしているし、したたかです、非常に。あまり日本の若い子を見ていると、あまり人を疑わないし、「うん」と言えば「うん」だし、「はい」って言えば「はい」だしてという感じで、ちょっと見ているとだんだんだんだんしなりがなくなってきたというふうを感じるんで、やはり子どもの頃から大勢の人の中で、いろんな人に接しながら、心を少しずつ磨いていくという作業が必要なんじゃないかなというふうに思います。

私たちの上の世代なんかは、それこそ向こう三軒両隣で子供たち育てるときに「ちょっと今日、私たちはいないから頼むわ」って言って知らない家に預けて、夕飯食べさせてもらったり風呂へ入れてもらったりして育ったのが多分私たちの親父の世代。我々もかろうじてそんなのを味わったりしているので、今の子供たち、多分そこまでないんじゃないかな。

だからそういう人間関係のない中で、「学校が小さくなって」って、「さあどうしよう。子供たち大切だよ」ってというのは、僕は逆のような気がしてならないです。

もっと本当に育ってほしい環境って何なのかっていうのは、親のエゴじゃなくて、別のところできちっと議論したほうがいいんじゃないかなというふうに感じます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

はい、北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今日いただいた冊子の37ページですか。それから「配布資料」と書いてある、学校運営協議会では一歩先んじてこういうものをもとにして議論が始まっているのですが、一般の保護者の方、それから市民の方は、前にも申し上げたかもしれませんが、自分の回りの方たちと話していると「確かに子供が減っているよね」とか「学校のクラスが減って、何か小さくなってるよね」という程度の認識はあるのですが、これから6年とか9年とか先になったとき、実際に子供の人数がどれくらいになって学級数がこれくらいになっているという具体的なことはほとんど知らない。そこで、37ページの配布資料が多分、具体的に知らされる1番最初の資料かなと思うのです。

せっかくのこの資料を、例えば保護者の皆さんが本当にどれくらい共有していただけるか。要するに課題意識が持てるころまで行けるかというところが、本当にスタートだと思うのです。

そうじゃないと、いつまで経っても本当の現実がわからないまま、ただ聞いて、学校運営

協議会やこれから来年度また多様な方が加わってくるというのですけれど、それでも一部の方ということになってしまうので、この資料を配りっぱなしで終わらせるのではなくて、この内容について、より多くの保護者の皆さん、それから地域の皆さんにまずは理解してもらって、「やっぱり本気で考えていかないとだめだよ」っていう意識をどこまで深められるかということが、今の段階の一番のポイントじゃないかというふうに思うのです。

そういうふうに考えたときに、この資料は、どのように配られるのかっていうことなのです。ただ家庭配布で持って帰っておしまいということになるのか。学校にお願いをして、参観日の折とかに、これを使って、例えば全般の読み合わせをすることかというような時間を取ってもらえるのかどうか。コロナ感染が心配ということを書いていくと、多くの保護者が一堂に集まることは今避けている最中だから、厳しいかなっていう思いもありますが、何とか知恵を絞って、この中身を少しでも多くの方に広げるっていうことがまず一番に大事なところかなと。

そうした流れの中で学校運営協議会は、ちょっと先んじて議論をさらに深めていきますよというような位置付けになっているのかなと自分は理解をしているのですけれど、その辺はいかがですか。

○教育長（代田昭久） はい、竹村主幹、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼教育企画課担当主幹（竹村公彦） おっしゃるとおりだと思いますので、多くの皆さん、この内容を理解して内容を説明する機会を考えていきたいと思っております。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今、そういう考えでいきたいと思うと答えていただきましたが、そこからもうちょっと突っ込んで何か具体的に、例えばこんな方法でとかっていうことが今段階でありますか。これから検討ということでしょうか。

○教育長（代田昭久） 松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） 補足をしますけれども、先ほどの 37 ページのものについては、これは通常の、学校から保護者宛てのお便りという形でお配りしてもなかなか目に留めていただけないということと、情報量が多いのでなかなか最後まで読み切っていただけないことが想定されるということで、これについては、これからの子供の学びの場づくりという極めて重要な課題であるし、各ご家庭またお子さんにとって重要な課題であるので、是非、ご一読いただきたいというこの通知文を、できれば学校長名と学校運営協議会の会長名の連名で、添えた上でお出しをすることを考えています。

次に、もう少し意見交換の場づくりをということですが、それについては 36 ページの全体スケジュールのところで、令和 4 年度に照準を合わせていて、ここでは今の現在の小中学



校の保護者の方はもちろん、幼稚園・保育園のお子さんをお持ちの親御さんたちからも十分に意見をお聞きしたり、課題共有をして考えていくことも必要だということを書いています。令和4年度には学校運営協議会に留まらずに、もう少し広い層の皆さんに、この課題を伝えて意見交換をしていく予定であり、令和4年度の当初に、先ほどイメージを掴んでいただくための例示として、先ほど三浦委員さんのほうからもご質問いただいた資料がありましたけれども、これをもう少し補強したり工夫をしたりして検討材料をお示しし、検討を進めていくというふうに考えています。

それともう1つ、野澤委員さんからもご意見ありましたけれども、漠として「ご意見をいかがですか」と聞いても、なかなか議論が深まらないので、第2回の学校運営協議会では、32ページのところに例えば生徒数の減少というのが、子供たちの学びにとってどういう影響をきたしてくるのかっていうことを、「良い面」と「心配される面」で整理してあります。こういった学びの環境変化によって、子供たちの教育に影響が生じてくることを、参考にして議論いただくということですか、現実問題とすると33ページのように教員の配置にも児童生徒数、学級数に応じて配置がされますから、児童生徒数が減じて学級数が減じてくれば、先生方の配置も薄くなっていくということが現実問題としてあるものですから、そういったものも捉えていただいた上で議論を進めていただく。こういった具体的な資料をお出ししながら学校運営協議会での意見交換をしていただいて、進めてまいりたいなというふうに思っております。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

いかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、いま、北澤委員からもありましたけれども、今年度は、学校運営協議会を中心に、そして1人でも多くの皆さんに現状を知ってもらおうというのが大きなテーマです。

そうしたときに、この37ページ・38ページの資料をどのように伝えるかっていうのが大きな課題になると思いますので、研究会でも様々な指摘を受けたので、しっかりとこれをどうやっていくかというのを事務局でももう一度検討をしながら伝えていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それではこの議題については、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは次に移ります。

---

## (2) 飯田型キャリア教育の推進について

○教育長（代田昭久） 2番、「飯田型キャリア教育の推進について」お願いします。

山浦教育支援指導主事、お願いします。

○教育支援指導主事（山浦貞一） 学校教育課の山浦と申します。よろしくお願いします。

資料 39 ページをごらんいただきたいと思います。

コロナ禍の飯田のキャリア教育の活動をしながら、飯田型キャリア教育の概要とこれからの見通しについて説明をさせていただきます。

まず 39 ページのところでキャリア教育の定義を確認させていただきます。平成 11 年の中央教育審議会で初めてキャリア教育という言葉が登場しました。その後、キャリア教育の理念が浸透する一方で、間違った認識や課題もありました。その中身というのが、ボックスの下線の引いてある 3 つであります。

1 つは「職場体験活動のみをもってキャリア教育」ですとか、「次の学校段階への進学のみを見据えた指導」ですとか、「将来の夢を描くことばかりに力点」を置く。そんなことが挙げられております。

その下のボックスを見ていただきますと、そのほかにも「勤労観、職業観」のみに特化したり、「職業教育」を同義としてとらえたりしている部分があり、網掛けになっている部分にある、「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を養う」ことが浸透していない状況があるということでございます。

このような背景が現存する中、ページがちょっと飛びますけれども、42 ページをごらんいただきたいと思います。

飯田市は、文科省が進めるキャリア教育の創成期より取り組みを始めた経緯と歴史があります。具体的には、平成 18 年度から文科省のキャリアスタートウィーク推進地域指定を受けました。そのキャリアスタートウィークということですが、これは中学校で 5 日間以上の職場体験のほか、地域の協力体制の構築、それが主な内容になっております。

長野県の中で、3 つの中学校が取り組んだわけですが、その 1 つが飯田西中学校であるということになります。その後は、平成 25 年度から「ふるさと学習」を中核としたキャリア教育を推進し、平成 29 年度からは、小中一貫したキャリア教育指導計画を作成して全中学校区で義務教育 9 年間の系統的なキャリア教育に取り組んでおります。

その積み重ねの中で築いてきた飯田型キャリア教育の特色ですが、もう一度、資料 39 ページに戻っていただきまして、39 ページの 1 番下のボックスのところにあります、1

つは、地育力を活用した「ふるさと学習」をキャリア教育の中核に位置付ける。2つ目が、「ふるさと学習」を中核にしながら文科省が例示している基礎的・汎用的能力を育むということ。それから3つ目が地域ぐるみの協力体制を構築する。これに集約されるかと思います。

詳細につきましては、その後の資料40ページ・41ページをごらんいただければと思います。

次に、資料43ページをごらんいただきたいと思います。

このページでは、「飯田型キャリア教育」の推進する組織について説明をさせていただきます。

2年前、国や県も10年ぶりにキャリア教育のガイドラインを見直して、「縦のつながり」や「切れ目のない学び」をキーワードとしました。その動きを受け止める形で、飯田型キャリア教育を推進する教育委員会の事業を体系的に示した図となります。

この中には、キャリア教育研究委員会などありますけれども、その1つ1つの事業についての説明は今日は省略させていただきますけれども、いずれにしても地域の協力体制を基盤に飯田型キャリア教育を推進する体系図となっております。

続いて資料44ページをごらんいただきたいと思います。

この2年間は、ご承知のとおり新型コロナウイルスの感染拡大により、市内の中学校の職場体験活動のほとんどが中止となりました。体験できない状況下ではありましたが、下の図の実践例のように、学校、学年、生徒が主体的に工夫した活動を企画し、飯田型キャリア教育の学びを止めない取り組みが報告されています。

例えば、**1**は緑ヶ丘中学校の取り組みです。生徒が実行委員会を組織し、地元の大人の方から学ぶキャリアフェスを実践しています。15の地元企業が参加し、天龍中学校の生徒も一緒に参加しました。このキャリアフェスは、この2年間多くの中学校でも同様な取り組みを行っております。明日は旭ヶ丘中学校で、そして今週の土曜日は高陵中学校で地元を主体にしたキャリアフェスが行われる予定となっております。

45ページですけれども、このページは、コロナ禍における職場体験の実施判断の基準を示しております。基本的な考え方としては、職場体験活動は、これからの時代を生き抜く力の獲得につながる大切な場の1つである。そういうふうを考えています。したがって、感染拡大防止策を講じた上で、可能な限り職場体験を実施する基本的な立場を示しております。

この基本的な方向性の上で、実施できる場合と実施できない場合の物差しを明確にしました。

46ページに感染対策チェックシートがございますけれども、これはコロナ禍で職場体験を

実施する上で、学校が事業所と信頼関係を構築していくための資料の1つになっています。

ここまでは、経過と方向が中心でしたけれども、ここからは現在キャリア教育研究委員会や、教頭会等で協議している内容を紹介しながら、これからの見通しについて説明させていただきたいと思います。

資料 47 ページをごらんいただきたいと思います。

キャリア教育は、義務教育段階だけでなく、幼稚園・保育園から高等教育までのつながりで考えていくことが、これからの人材育成につながると考えております。文科省もキャリア教育の推進において2つの方向性を明確にしていますが、その1つが幼児期の教育から高等教育まで発達段階に応じ体系的に実施するように求めていることです。

そこで、今まで各主体が取り組んでいたキャリア教育の実践を、この図のように発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育実践のイメージ図として作成をいたしました。

縦軸が発達段階、横軸が地域や社会との関わり、そういう絵になっております。左下は幼稚園・保育園の実践を示し、右上がりのキャリア形成上に小学校や中学校のキャリア教育実践があり、そして右上が高等教育を含む高等学校の実践を表しています。

次のページに、カラー刷りの資料がありますけれども、さらに詳しく述べたいと思います。

先ほど体系的・系統的なキャリア教育実践というように言いましたけれども、そこを「人間力を構築するための『切れ目のない学び』」というタイトルに変更し、全体像で示しました。

左下に私立千代保育園の自然保育を引用していますが、幼稚園・保育園の主活動は遊びになります。この遊びの中には、資質・能力の素地となる学びの領域に結びつく芽があると考えています。具体的には、その遊びは言葉ですとか、科学ですとか、暮らしですとか、表現、こういったものの学びの領域に結びつくと考えています。

当然、子供たちは意識していませんけれども、その遊びの中に、言葉や科学、暮らし、表現があり、やがて言葉は国語や英語活動に、科学はやがて算数や生活科や理科につながる、そんなふうに考えています。

小学校段階では、地元をフィールドにしたふるさと学習を中心にした体験活動がすべての小学校で定着しています。

中学校段階では、3日間以上の職場体験・福祉体験が行われ、最近では、その左上にありますように、飯田東中学校の例のように、学校や地域の課題に目を向け、協働的な学びへと発展するような実践も生まれてきています。

高等学校や飯田コアカレッジですとか、飯田女子短期大学のような高等教育機関では、社

会的な課題を仲間と協働し、より高度に、より専門的に解決に向け取り組むような探究的な学びが始まっています。

いずれにしてもこの部分を研究委員会のほうで議論しながら、教頭会でも協議をしながらこの絵の完成に向けて今取り組んでいるというのが現状であります。

最後に資料 49 ページからのキャリア・パスポートと育みたい4つの力について、説明をさせていただきます。

キャリア・パスポートというのは、学びの履歴と捉えていただいて結構かと思います。

このキャリア・パスポートについては、令和2年4月よりすべての小学校、中学校、そして高等学校において実施することとなっています。言うまでもなく経験や体験の丁寧な振り返りは、子供たちのキャリア発達を促すものであり、そのパスポートを小学校から高等学校まで持ち上げて行こうと、そういうものであります。

各中学校区では、国や県の見本を参考にしながら形式を決めて活用を始めていますけれども、学校のほうからは、中学校区ごとの形式は保障しながらも、飯田型キャリア教育のねらいや育む力、小中一貫キャリア教育の全体像など、共通ページの必要性を指摘されています。

そこで現在、研究委員会で協議したり、教頭会プロジェクトで議論しながら、以下にあります①から⑥の6ページ分を共通ページとして市教委のほうで作成する準備をしています。

資料の中には、50 ページ・51 ページに中学校版の②と③の部分を紹介させていただきました。50 ページのほうは、飯田型キャリア教育のねらいですとか、学校からのメッセージが入っているページ。51 ページについては、育みたい4つの力、この力を明確に示して中学生の子供たちに伝えていく。そういう中身になっています。

この6ページ分を今年度中に協議をしながら、完成に向けて動いているのが現状であります。

以上です、よろしくをお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、キャリア教育の推進についての説明がありました。

ご意見等あれば、お願いいたします。

はい、上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 飯田型キャリア教育の説明、ありがとうございました。

いろんな子供たちもキャリア教育を通して、いろいろな職場を体験させていただいたり、本当に有意義な学びをさせていただいたと思って感謝をしております。

キャリア・パスポートという構想について、今後、こういうのをつくっていきたいという

こととお伺いしました。その前段階として、この大きなA3の「人間力を構築するための『切れ目がない学び』の全体像」を見せていただいて、本当に幼・保・小から中・高、そして高等教育へつながる切れ目のない学びというものが見えてきました。

この中で、私自身は子供たちが、この飯田市にいて最高に良かったなと思うのは、やはり自然の中でいっぱい遊べたということです。人生の出発点である子供時代に、たくさん自然の中で遊ぶことができたということが幸運なことだったというふうに思っています。それが今、飯田ではもうまちぐるみでやはり「やまほいく」という感じで自然保育をやっていきますので、説明のあったキャリア・パスポートの中にも、そのスタートが小学校というよりは、私からすると願わくば、幼稚園・保育園のときにいっぱい遊んだっていうような感じで、泥んこ遊びをした、木登りをした、水遊びをしたっていうようなそんなキャリア・パスポートの第一歩があるとすごく楽しいんじゃないかなというふうに思います。

文科省でよかったでしょうか、文科省でも今後、5歳児というものに遊びを通して学びを提供していくっていうような構想というか、呼びかけが始まっていると思います。

そういった意味でも、ちょっと管轄が教育委員会と違ってしましますが、保育園・幼稚園は子育て支援課のほうになるかと思いますが、そちらとすごく連携をとっていただきたいと思います。そして子供たちにとって自然と遊びということが、すごく体力づくりにも大事だし、先ほどおっしゃったような、言葉、科学・暮らし・表現にとって大事だということを共有していただきたいとなと思います。子供たちが本当に力強くいろんなことを築ける大人になっていく第一歩として、そこをすごく大切にしていっていただけると、より飯田らしく豊かな学びのキャリア教育につながっていくんじゃないかというふうに思いました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

今、具体的に幼・保・小まで入れたらどうかっていうような、意見がありましたけれども、山浦先生のほうでいかがでしょうか。

○教育支援指導主事（山浦貞一） おっしゃるとおりだと思います。私も委員が願っている楽しいパスポートは大事なキーワードだと思っています。

ですので、この千代保育園の例がありますけれども、園児が「あぜ塗り」をして、大人が「あぜ塗り」をして評価をしてあげる。ここに飯田らしさがあって、飯田のパスポートには地域の人声も入ってくる。こうやって地域の方に認められたっていうことをパスポートの中に組み込むことが今、飯田市でつくっているパスポートで1番の課題なんです。そんな点を盛り組みながらさらに飯田市らしいものができればなというふうに思っていますが、委員

がおっしゃったような楽しいパスポートに向けて準備していきたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、北澤委員、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 昨年来、事務局のほうにお聞きをしてきたキャリア・パスポートの件、本当にこうやってずっと高校まで持ち上がっていくものを、改めて体系づけていただいて、なおかつ今、今年度中というお話でしたけれど、49ページのたたき台にあるような、これもまた飯田らしいキャリア・パスポートかなというふうに思います。県にお聞きをすると、国のものを例示しつつ、あまり現場に負担をかけないように、なるべく簡素化してやっていきたいというようなコメントを学びの改革支援課の課長さんから昨年末お聞きしました。どちらかというと、余分なものという語弊がありますけれども、「あまり現場に、これ以上の負担をかけたくないから」というようなコメントだったんですね。

せっかく子供たちが学んでいく大事なキャリア・パスポートを、そうやってあまりマイナスの形で受け止めたくはない。せっかく作って、記録を累加していくので、児童生徒たちが本当に自分の育ちを自分で、少しでも自覚をしながら、高校まで育って行って、冒頭、野澤委員さんの自己紹介された中にもありましたように、将来地域や日本・世界に羽ばたいていくような子供たちを育てていきたいという、その1番根っこになるものだというふうに自分は思っているので、このキャリア・パスポートはよく討いただいていると思います。

それから、この間、旭ヶ丘の校長先生とお話をしていたら、コロナ禍で職場体験のようなものがほとんどできない状況もあって、旭中では明日、キャリアフェスがあるということですが、そのキャリアフェスのことをお聞きしたら、「単なる見学やそれから机上で、学校の中だけでやっているのは、それなりに意味はあるけれど、やっぱりだめなんですよ」って、「現場で子供は汗を流したり、目の前で五感を働かせて、いろんなものに触れて、それで悩んだり、逆に感動したりしてこないよ、やっぱり物足りないんですよ」と校長先生がおっしゃったんですね。

それはとっても印象的な言葉で、今48ページのことを話題になっていますけれど、飯田市のことで言うと、保育園から高校、大学まで子供たちの感動体験につながるような、様々な体験をキャリア・パスポートに記録を累加しながらずっとつないで持ち上げていくということがとっても大事なことだと思います。

ですから、48ページに位置付けてくれたこの体系にしたがって、それぞれ保育園・幼稚園から高等学校まで、お互いにそれぞれの発達段階を理解しながら是非つないでいって、この飯田型キャリア教育で人材育成を進めていきたいと思っています。

自分も県教委にいて実はこのキャリア教育担当だった時期があります。自分がずっとやっ

てきた中で、これだけ充実した流れになっているものって、多分、全国探してもそんなにはないというふうに自分は思っています。これが、具体的に進んでいくことをとって期待しているし、ありがたいなというふうに思っています。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかに、いかがでしょうか。

はい、三浦委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） とてもわかりやすいご説明をいただいて、ありがとうございます。

48 ページの構想のイメージ、発達段階に合わせてというようなところも、とてもわかりやすく拝見しました。ほかの委員の皆さんたちのお話にもあったように、楽しいと言いますか、興味を持って心と体で感じてっていうところが、やはりこういったキャリア教育には大切だし、飯田型のキャリア教育だよなっていうところも感じました。

私は仕事の中で、このコロナ渦で、学生が医療機関の実習が学内実習に変わったりというようなところを実際に見てきました。学生たちは、それなりに学んでくれますけれども、やはり実際に現場に行って見て聞いて感じてといったものに本当にならうことはないなと、そんなところが最近感じた自分の思いでもあります。

本当に実際にあるものに経験するといったところの心と体へ学べる大きさというところ、そういったものが大切だと思ったときに、このイメージ図を見ていて、発達段階に合わせてこういった様々な経験で学ぶことは本当に多いだろうなと、期待して見させていただきました。

ありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） ちょっと根本的なところで人間力という言葉は、何でしょうか。

○教育長（代田昭久） はい、山浦主事、お願いします。

○教育支援指導主事（山浦貞一） 文科省のほうでは、子どもたちの主体性、社会性などの、基礎的・汎用的な力というものを育もうとしています。私が言っている人間力を構築するイメージというのは、いわゆる関わりの中で生きていく、そのときに自分の根本的な生き方の根っこのようなそういう力、そういうようなイメージで捉えています。

◇教育委員（野澤稔弘） 非常に曖昧な言葉なので、もっと具体的に出したほうが僕はいいと思います。



例えば日本語だと学力って言いますが、この学力っていうのは、英語に訳せない。そんな言葉ないですからね。なので、こういう何とか力ってよく最近使われるんですけど、何となくぼやかしていいような言葉に聞こえるように感じてしまうので、もっとはっきりと、飯田を背負って立つような人を育てたいとか、いうふうにしても良いんじゃないかなって私は思うんです。

何か、もっととんがって良いんじゃないかと思うんですけど、大体丸くなっているんですね。いろんな方の意見を聞いて。でも、もっととんがらせて、ちょっと違うことやってるぞくらいの話で良いんじゃないかと思うんです。

私は、今日初めてこういう会で話をさせてもらってますけど、いろんな会議で、いろんな資料を読ませていただきますが、どうしてもその丸い感じの、誰が聞いても「ああいいね」って思うようなイメージのものになっているのは致し方ないのかもしれないけれども、いや、1人や2人は「ちょっとこれおかしいんじゃないか」っていうくらいのものでつくっていかないと、これからの教育って変わっていかないんじゃないかと思うんですけど、その辺はまだまだこれから先、いろいろ考える余地があるのかなと思って聞いておりました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

◇教育委員（野澤稔弘） 決して悪いことじゃないと思うので、やってる内容を批判しているわけじゃなくて、ゴールをみんなで考えていかないといけないかなという、そんな視点で聞いていただければと思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

私も感じる時はあるんです。やっぱり合意形成をしていくと、どんどんどんどん平準化したり汎用的になっちゃって、余計わからなくなっちゃうということもあるのだけれども、かといって、非常にとんがったものを書いちゃうとですね。非常に突っ込みやすくなって、そのバランス大事だなと思うんです。今の指摘は指摘としてしっかりと受け止めながら、まさに飯田らしいキャリア教育ですので、そんなところでどんなところでも口に出していくというのは、大事な事かなあというふうに思います。

ありがとうございました。

以上、各委員の皆さんから、意見を出していただきましたが、ほかにいかがでしょうか。

松下参与、お願いします。

◎参与（松下 徹） 野澤委員さんから、とがった部分、特色的な部分があるべきというお話ありましたけれども、今説明があった中で飯田市のキャリア教育では、特に高校を卒業するとき

には地域に誇りと愛着を持って行動・貢献する姿を描いています。一般的にキャリア教育で言ったときには、自ら主体的に自分の轍をつくっていける力を持った人材を育むってことで、必ずしもそこには地域の担い手をつくる、地域に貢献をする人材をつくるってところは、あまりこう明確には出てこないんですけども、そのところを飯田市については、やはり地域に誇りと愛着を持って、人と関わりながら自ら地域の可能性を開いてつくっていける、そういう力を持った人を育てていくことを重要な目的にしています。その点について、こういう形で打ち出しをしていることについて、どうなのかなというところは、事務局としても確かめたいところであるので、ご意見をいただきたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） とても良いと思います、私は。

午前中、産業振興審議会に出させていただいたときに話したんですけど、何となくこう「人がほしい」という話の中で、やっぱりリーダーにほしいんじゃないですかっていった中で、やっぱりこうやって育てていったところの飯田があるよってというのがやっぱり強みだと思うんです。それをちゃんと打ち出していっているっていうのは、私は全然悪いことじゃないと思います。

ただ、それに対していろんな意見があると思うんですけど、やっぱり行政とかっていう立場からだったら、なかなか難しいと思うんですけど、本来はそれは政治家がやることだと思うんですけど、その衝突する意見に対して、きちっと説得、納得してもらってという行為をきちっとやるっていうことが大事であって、やっぱりいろんな意見があって当たり前なんで、ただ必ずしも100%じゃないですし、それでも良いと思って進めていくときには、すごく良いことではないかなと思います。

○教育長（代田昭久） はい、上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 飯田の資源を生かして飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力、ということなんですけど、率直にふっと湧き出てくる思いとすれば、高校まで育てたけれども、外に出すっていうような思いがどうして出てきてしまうというのがあります。

大学進学等で都会に行ってしまうっていう、それで帰ってきてくれば、もちろんこのメッセージっていうのがその後も生きていくと思うんですけども、そうではない、進学で飯田を離れた時点で何かちょっと空しいというか、このメッセージが響き続けてくれるのかなっていうのが偽らざる本音ではありますが、でもこうして、飯田型で飯田に誇りを持ってほしいっていうふうに行政のほうというか、こちらのほうからメッセージを発してもらうというのは、ある意味、保護者からすると、そういったメッセージは発してもらうことが親とし

ては言えないけれども、教育の中で言ってもらおうという意味では大事なのかなと思ったりするところがあるのが今の気持ちです。

○教育長（代田昭久） はい。

野澤委員、お願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 私の実体験なんですけど、私は横須賀に育ってたんなんですが、母方の実家が大阪と和歌山の県境の山奥、それこそ、この辺でいうと清内路のようなあんなようなところなんです。

夏休みになると、私はもう1人で小学校の四年生の頃から1人で新幹線に乗って、その家まで遊びに行って、ずっと夏休みをそこで暮らしてた。

そこでの暮らしは、川で遊んだり、それこそ山へ行ったり、そんなことばかりやってて、畑仕事を手伝ったり。そこへ行くといとこ、はとこ、またいとこ、全然見たこともない親戚がいっぱいいて、その子供たちと一緒にあって、わーわーと毎日遊んですごい楽しかったです。

でも自分が都会に帰ってきて、そうするとその「どうしても田舎で働きたい。田舎に行きたい」という思いが、その頃、醸成されている。でも大学を卒業しても、つても何もないので、そのまま普通に東京の会社に就職したんですけど、たまたま今の妻と知り合うことができて、ここに来て20何年になっているんですけど、すごい幸せなんですね。

ですけど、ここにいる人たちって、良さを知らないんですよ。「こんなことをして遊べるじゃん」「こんなことをして遊んだじゃん」というのを、私が今、自分の住んでいる家でやっていると、「そんなこともやっているの」「あんなこともやってるよ」「何で、なんで」って。同世代の人でも同じようなことをしない。だから、やっぱりこのキャリア教育っていうのは大事だなんて思うのは、そういう労働も含めて、子供の頃からこの地域で育まれてきたものを見ていく、知っていくっていうことは、すごい大事なんじゃないかと思います。やっぱりそれで、そこに魅力があるかないかはその人個人だと思いますけど、自分はそういうことがすごく大好きで、何でもそういうことをしたかったので、どこでも良いから都会は嫌だという思いをずっと抱きながら東京で働いていたので、良い機会に恵まれて飯田に来てすごく幸せだと思う。

そんな意味では、すごいこのキャリア教育っていうのは、特に小さい頃、大事なんじゃないかというふうに思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

では、私からも一言、42ページの右側の取り組みのところの、第2次教育振興基本計画の

中で、「LG飯田教育がスタート」したっていうところで、キャリア教育の1つの視点を入れさえていただきました。これローカルとグローバルっていう意味です。地域で育ち、世界を視野に入れて、また世界視座で考えながら地元で活動する。これを一体的に学んでいこうということなんです。

私自身、逆にいうと野澤委員と逆で私、考えてみれば30年以上飯田市を離れていて、じゃあそれが今の生活に役立ってないかということそうじゃなくて、世の中を変えるのは、「よそ者、ばか者、若者」って言われるように、外の経験とか、視野を広げるってすごい大事だと思っています。なので、一旦外に出ること自体は本当に悪くなくて、その外に出る前に、まさに誇りと愛着がそこに育てているかどうかっていうのが大事な要素だと思っています。

逆に外に出て、より視野を広げて飯田に戻りたいということがあってもいいし、じゃあ、ずっと居続けている子供たちは視野が狭いかっていうと、そうならないようにまさに、今回のインターネットをもって海外と結んだりとか、様々なグローバルな視点もこの頃から育てる。少なくともふるさとの良さを感じるための1つの基軸としてのグローバルっていうのを一体的に推進するっていうのが、とても大事だなと思って推進している状況です。

はい、三浦委員、どうぞ。

◇教育委員（三浦弥生） 野澤委員と教育長の話をお聞きしていて、では私はというと、私は50年余ずっと飯田市にいたことになりましたが、飯田市の良さを知っていないかということそういうことではなくて、やはり飯田市のことが好きで、よそは出かけて行くところ、この飯田市は自分が生活するところと、そんなイメージがあるのかとそんなように思っています。

こうやって飯田市に残ってきた私が、じゃあキャリア教育っていうものをしっかり受けてきたのかと思うと、そうではないんだろうなっていうふうに、このようなしっかりしたカリキュラムだったものはやってこなかったのかなと思いますし、こういったものがなくても、ある意味、家庭の中でまたその地域の児童会ですとかそういった中で、もしかしたら意図せずこういったものに関わってきたのかもしれないと、そんなところも感じます。

でも、私はこれだけしっかりした飯田型のキャリア教育を受けた子供たちに100%飯田市に残ってほしいっていうふうに思っているわけではありません。やはりこういった飯田でしかないキャリア教育という、こういった学びを受けた子供たちに、その何て言うんですか、力を付けて、力というと良くなかったですけど、そういった何ですかね、力と言わせてもらって、力をつけて、飯田市の中、または地域の外へ、または世界の中へというふうに、そういった力が1つのきっかけになってくれればいいかなと思いますし、飯田市民、地域の1人の人間としては、またそういうところで力をつけた人たちにも戻ってきてくれて、また

支えていただけたらありがたいかと、外からでも飯田市のことを思っていたいただけたらありがたいなというようなことを感じます。

ですので、こういった力をつけた子供たちが大きくなって、いろいろなところで活躍できると、そういったところをちょっとイメージして見させていただきました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは本日の協議事項、以上とさせていただきます。

本当にいろいろな視点からのご協議ありがとうございました。

---

#### 日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 日程第8、「陳情審議」。

今月の陳情審議ございません。

---

#### 日程第9 その他

○教育長（代田昭久） 日程第9、「その他」。

---

##### （1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 「教育委員報告事項」、教育委員の皆さんからご発言があれば、お願いいたします

はい、上河内委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 10月8日に飯田市戦没者追悼式に参加させていただきました。ありがとうございました。250人の方々が鼎文化センターに集まり、戦没された方々を追悼し献花をさせていただきました。改めてそういった場に参加させていただき、大変感慨深かったです。

そして、また当時の教育というものを改めて考え、平和にとって教育というものがいかに大事かというものを改めて考えさせていただく機会となりました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

研修と被りまして、大変お忙しい中だったですけど、貴重な講演、本当にありがとうございました。

ございました。

今日、私のほう、原稿いただきましたので、しっかり勉強させていただきたいと思います。  
ありがとうございました。

ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

---

## (2) 参与報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「参与報告事項」をお願いします。

◎参与（松下 徹） 特にございません。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

---

## (3) 学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） 「学校教育課報告事項」をお願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい、特にございません。

○教育長（代田昭久） はい。

---

## (4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」をお願いします。

伊藤課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 本日、別冊で令和3年度「わが家の結いタイム」という資料をお配りさせていただいてあります。

まず最初に、この「わが家の結いタイム」ですけれども、教育委員会からでは家族のふれあいの時間を大切にしたいということで、それぞれのそういったふれあいの時間を「わが家の結いタイム」ということで名付けておまして、取り組みとしましては、挨拶、会話、お手伝い、読書等をやっておりますが、近年ではSNSネット利用のルールを含めた取り組みとしておまして、家庭教育の啓発活動ということで、毎年それぞれの家庭、学校、一般の方を含めて、三行詩というものを募集しています。

1 ページ目の裏面に今年度の募集要項をつけてございますが、本来であれば5月ぐらいの定例会でこの取り組みについて報告をすべきでしたが、できておりませんでした。実際には

募集要項よりも延長しまして8月末まで募集をし、1ページ目の資料にありますように、小学生から一般の部を含めまして1,391点の応募をいただいております。

2につきましては、それぞれの学校ごとの内訳となっておりますので、ごらんをいただければと思います。

この三行詩コンクールは、11月の青少年健全育成月間に合わせまして優秀作品というか、最優秀賞、優秀賞、佳作というような形で、この家庭教育の啓発に活用させていただくため、毎年この時期に教育委員さんには審査をお願いしております。

本日資料2枚目にそれぞれ「小学生一年生～三年生」、「四年～六年」、「中学生」、「一般」ということで、4つの部門でそれぞれ4つを選んでいただきたいということでお願いをしたいと思います。それぞれ応募数が違いますので、「一年～三年」につきましては、その投票用紙の次の紙にございますけれども24作品に事務局で絞らせていただいております。それぞれ一般の部まで含めまして、「四年生～六年生」は26点、「中学生」は22点、「一般」14ということがございますが、こういう家族のふれあい、そういうのをうまく表現されているなというような、そういった感覚で審査をいただいて、申し訳ありませんが、11月2日までに事務局のほうに提出をいただければありがたいなと思っております。

なお、応募数から絞らせていただいた考え方ですけれども、それぞれ、いろんな作品がありますけれども、「結いタイム」のそういった取り組みの趣旨に沿ったものであるとか、家族のふれあいを表現した、そういう心温まるような内容というようなものを事務局のほうで絞らせていただいたという状況でございます。

あと点数につきましては、それぞれ応募の数に応じながら絞ったというような状況でございます。

また教育委員会のほうに来る機会がございましたら提出いただければと思います。よろしくお願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「文化財保護活用課関係報告事項」お願いします。

馬場課長、お願いします。

◎文化財保護活用課長（馬場保之） 資料はございませんので、口頭でお願いします。

座光寺で現在、当課で進めております恒川史跡公園事業につきまして、地域の皆さんに関心や愛着を持っていただきたいということで、史跡公園の中に設置する標識について題字の

公募をいたしました。29 作品の応募がございまして先日審査を行い、決定をいたしました。

今後、史跡公園の中に設置される標識に刻してまいるとともに、地域の文化財展示等で、全員の方の作品についてご紹介していく予定です。

報告は以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （6）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「公民館関係報告事項」お願いします。

◎公民館副館長（秦野高彦） 本日はございません。

○教育長（代田昭久） はい。

---

#### （7）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「文化会館関係報告事項」お願いします。

◎文化会館館長（下井善彦） ございません。

○教育長（代田昭久） はい。

---

#### （8）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて、「図書館関係報告事項」お願いします。

瀧本図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いいたします。

飯田市ということではないんですけれども、今月の27日から来月11月9日まで全国読書週間になっております。こちらに標語を載せさせていただきました。この機会に読書や図書館利用のPRをしてまいりたいと思っております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （9）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「美術博物館関係報告事項」お願いします。

久保敷副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） それでは美術博物館からお願いいたしま



す。資料はございませんので、口頭でお願いいたします。

教育長報告の中でも触れていただきましたけれども、先週土曜日 10 月 9 日から菱田春草の特別展のほうを開催させていただいております。

委員さんはじめ多くの方にご来館をいただいておりますが、昨日からは小学校の学習来館も始まりまして、賑やかにさせていただいております。

今回の展示は会期を 2 つに分けてございまして、10 月 24 日までとそれ以降ということで展示替えもございまして、また機会をつくってごらんをいただければというふうに思います。

よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### (10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

久保敷副所長、お願いします。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（久保敷武康） それでは歴史研究所からお願いをいたします。

本日、別紙で「歴研ニュース」114 号を配らせていただいております。

この資料では、今、美術博物館で実施しておりますトピック展示をメインに紹介をさせていただいております。春草展と同時期から始めまして 12 月 12 日まで開催をしております。また合わせて関連企画、内容など見ていただきますと、9 月に開催いたしました地域史研究集会の開催状況なども掲載してございますので、ごらんいただければというふうに思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所まで報告事項がありました。これに対する質問ご意見等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

---

#### (11) 今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは、今後の日程についてをお願いします。

櫻井係長、お願いします。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） レジユメの3ページをお願いいたします。

今後の日程につきまして、学校訪問が明日からも何件か入っておりますのでよろしくお願い  
いたします。

10月20日が、飯伊市町村教育委員連絡協議会の秋季研修会がございます。2時から始ま  
ります。教育委員室のほうにお集まりください。

10月22日は教頭会になります、教育長職務代理者の出席をお願いします。

次回の定例会につきましては、11月11日木曜日3時からとなっておりますので、よろし  
くお願いします。会場は第2委員会室でございます。

1番最後11月15日は、飯田市校長会がございますので、教育長職務代理者の出席をお願  
いいたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの日程について何かご質問ありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） 本日予定されておりました議案すべて終了しましたが、そのほかにご発言  
ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

---

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） それでは、日程第10、以上をもちまして、令和3年10月定例会を閉じさ  
せていただきます。

本日もどうもありがとうございました。

---

閉 会 午後5時 3分